

YAMAHA CX-A5100/MX-A5000

接続例

ヤマハ株式会社

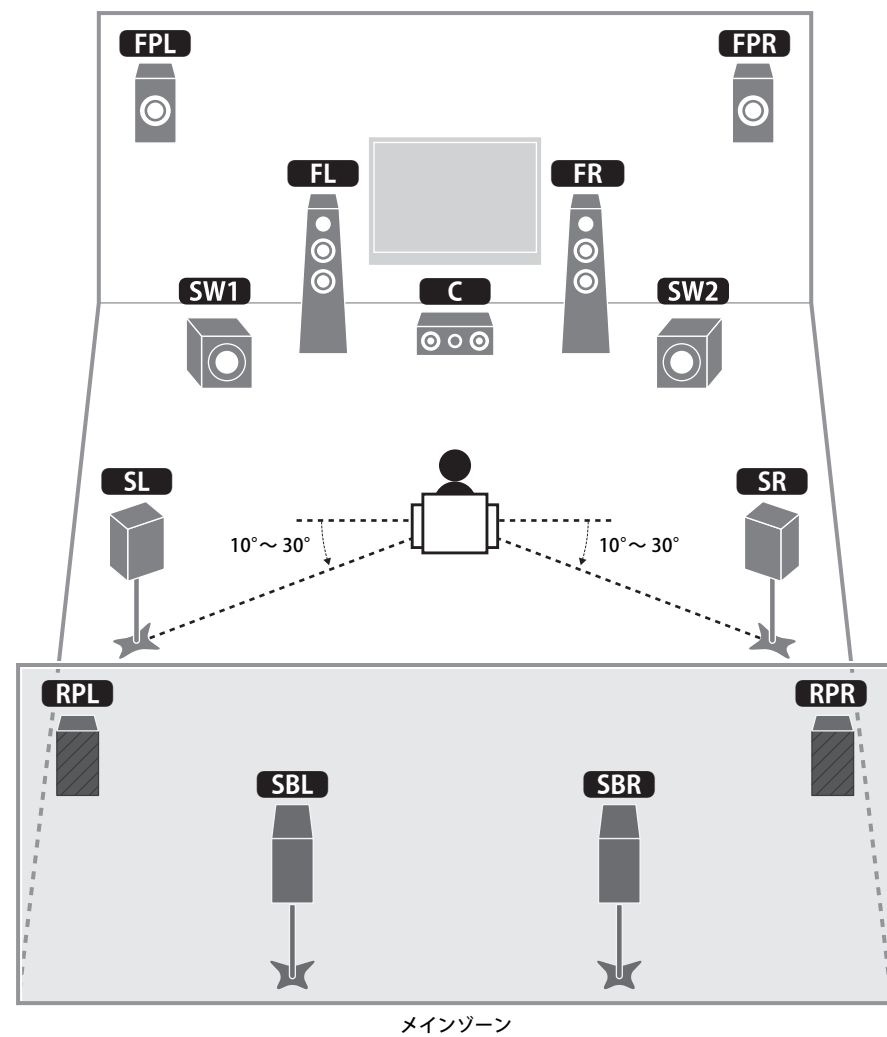
© 2015 Yamaha Corporation Printed in Malaysia ZQ93160

「AV プリアンプ CX-A5100」と「パワーアンプ MX-A5000」を組み合わせることで、さまざまなホームシアターシステムを構築することができます。本書では、3種類の代表的な接続例を紹介します。

なお、各システムで使用するスピーカーは「理想的なスピーカー配置」(下図)を参考に配置してください。

- 本書は接続例を示すものです。端子や設定について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- 機器を接続する前に、必ず各機器の電源プラグをコンセントから取り外してください。

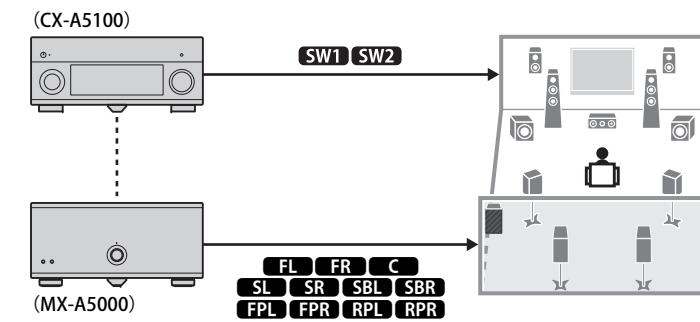
理想的なスピーカー配置



- FL** フロント (左)
- FR** フロント (右)
- C** センター
- SL** サラウンド (左)
- SR** サラウンド (右)
- SBL** サラウンドバック (左)
- SBR** サラウンドバック (右)
- FPL** フロントプレゼンス (左)
- FPR** フロントプレゼンス (右)

- RPL** リアプレゼンス (左)
- RPR** リアプレゼンス (右)
- SW1** サブウーファー (1)
- SW2** サブウーファー (2)

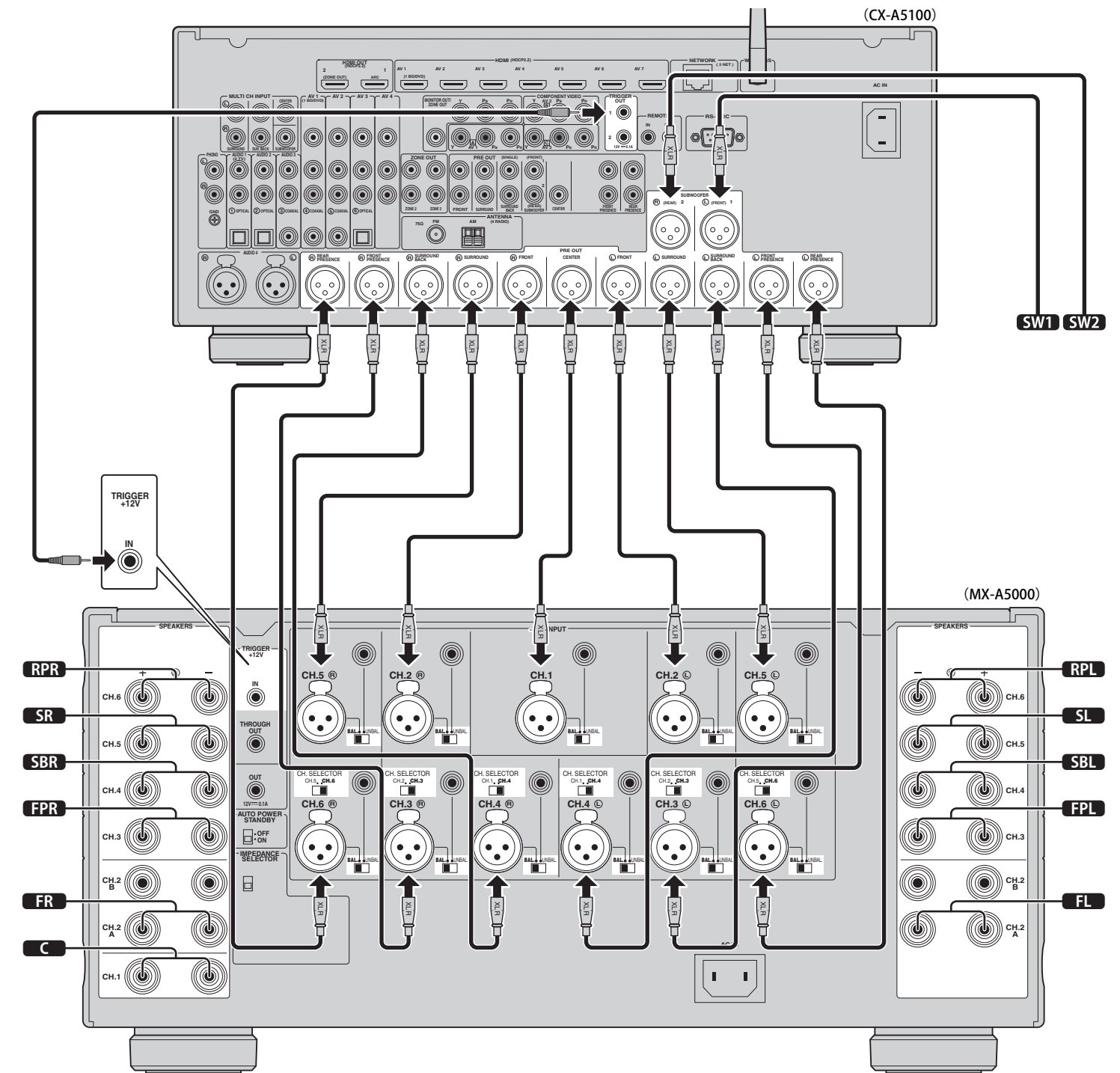
① 最大 11.2 チャンネルのホームシアターシステム



このシステムでは、シネマ DSP の最高峰 11.2 チャンネルで 3次元音場をお楽しみいただけます。

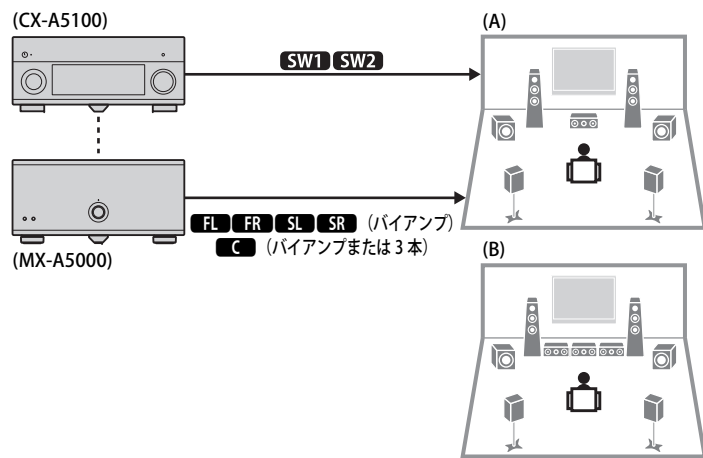


- サブウーファースの接続は、サブウーファーに備わっている入力端子により、バランス接続 (XLR) またはアンバランス接続 (RCA) を選んでください。



・MX-A5000のBAL/UNBALスイッチ(全チャンネル)およびCH.SELECTOR(CH.3、CH.4、CH.6)を、上図にあわせて設定してください。

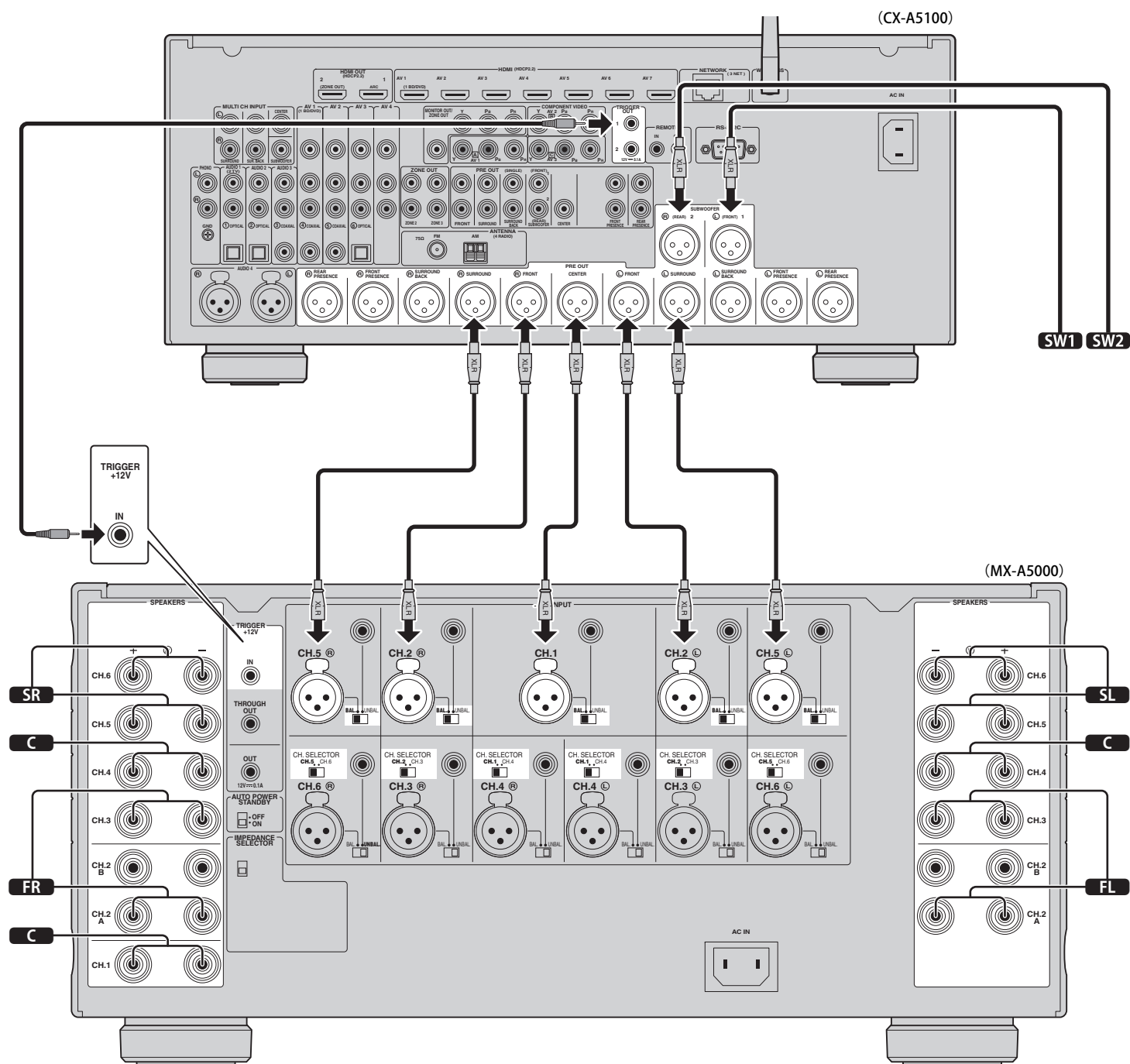
② 5チャンネルバイアンプ接続のホームシアター



このシステムでは、バイアンプ接続で各スピーカー（5チャンネル）を接続して、さらに高音質な音声をとお楽しみいただけます（図A）。センタースピーカーは、バイアンプ接続の代わりに最大3本接続することもできます（図B）。

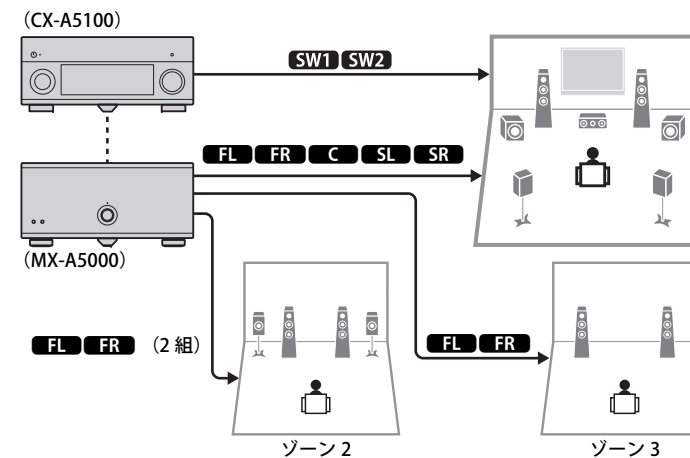


・サブウーファーの接続は、サブウーファーに備わっている入力端子により、バランス接続（XLR）またはアンバランス接続（RCA）を選んでください。



- ・MX-A5000のBAL/UNBALスイッチ（CH.1、CH.2、CH.5）およびCH.SELECTOR（CH.3、CH.4、CH.6）を、上図にあわせて設定してください。
- ・センタースピーカーをバイアンプ接続でつなぐ場合は、CH.1、CH.4（L）、CH.4（R）のうちいずれか2つのスピーカー端子に接続してください。
- ・複数のセンタースピーカーを接続する場合は、同じ種類のスピーカーを使用することをおすすめします。
（CX-A5100のYPAO補正は全センタースピーカーの総合特性で判定されます。スピーカー個別の補正はできません。）

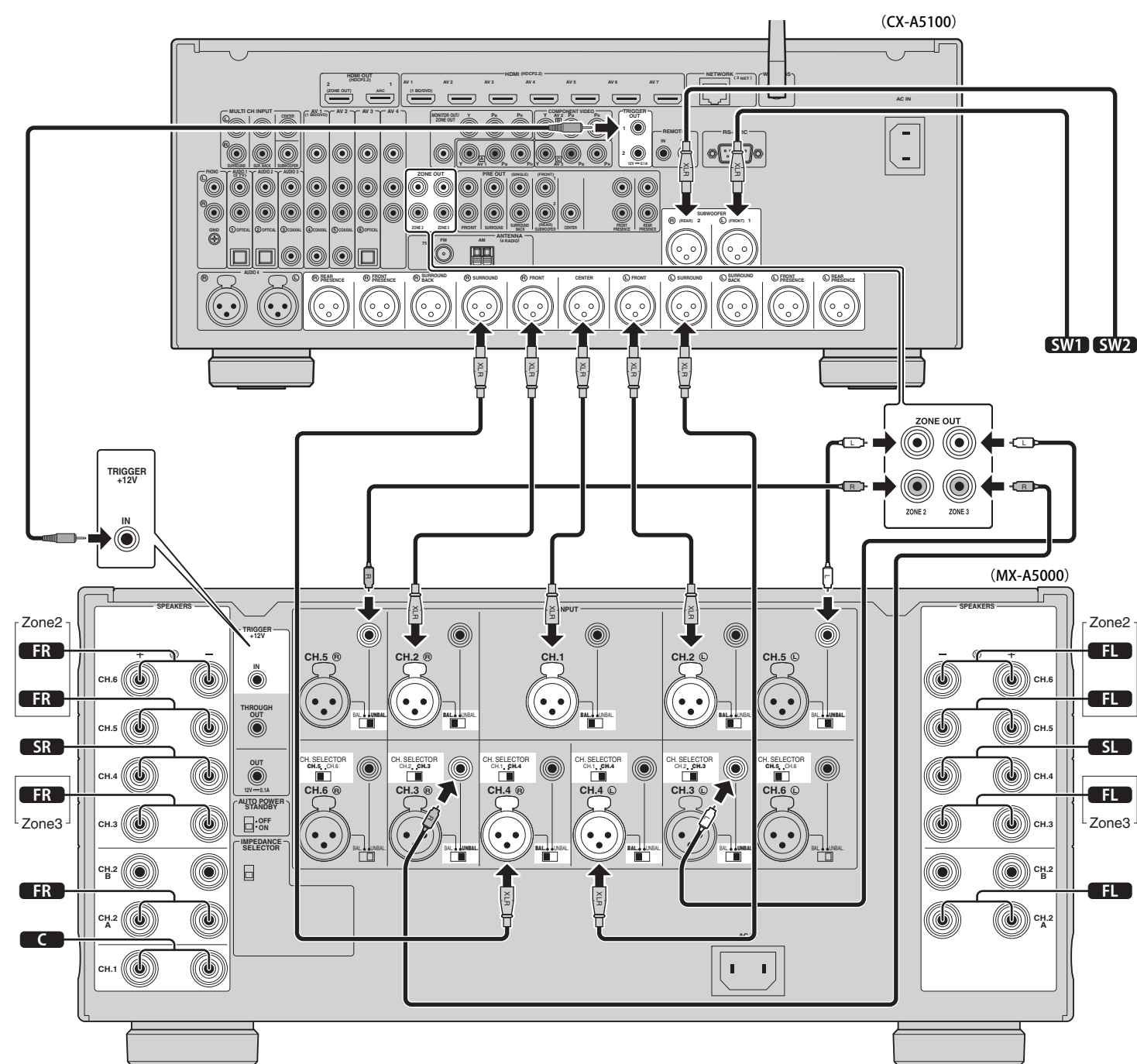
③ メインホームシアター（5チャンネル）＋2部屋（各2チャンネル）



このシステムでは、メインゾーンの5チャンネルサラウンドに加えて、別の2部屋（ゾーン2、ゾーン3）でステレオ音声をとお楽しみいただけます。必要に応じて、ゾーン2とゾーン3のいずれかで2組のフロントスピーカーを使うこともできます。



・サブウーファーの接続は、サブウーファーに備わっている入力端子により、バランス接続（XLR）またはアンバランス接続（RCA）を選んでください。



- ・MX-A5000のBAL/UNBALスイッチ（CH.6を除く全チャンネル）およびCH.SELECTOR（CH.3、CH.4、CH.6）を、上図にあわせて設定してください。
- ・必ずCX-A5100の「マルチゾーン設定」でゾーン2/ゾーン3出力の「音量」を「可変」（初期値）に設定してください。「固定」に設定した状態で再生すると、過大な音量によりパワーアンプやスピーカーが故障するおそれがあります。詳しくは、CX-A5100の取扱説明書をご覧ください。